

# Bookstart Newsletter



2020  
夏  
No.69

ブックスタート・ニュースレター



東京都杉並区

## 特集

## 20周年を迎えたブックスタート

— あの頃が、今につながる —

上の写真が撮影されたのは2000年11月。ブックスタートの試験実施※の様子です。イギリス生まれのこの活動は、「子ども読書年」を機に日本に紹介され、東京都杉並区で初めの一步を踏み出したのです。当時の世の中では「赤ちゃんに絵本は早すぎるのでは？」という考え方が一般的でした。そんな中、4か月の赤ちゃんが見せた絵本への反応は、周りにいた大人たちに大きな驚きと喜びを与えてくれました。

今回の特集では、杉並区立図書館の職員として、試験実施に尽力されたひとりの司書が語った、16年前のインタビュー記事をお届けします。日本で初めて事業に関わった担当者の当時の言葉から、活動の原点を改めて振り返ります。

また、2001年に事業を開始した富山県高岡市と岡山県西栗倉村より、ボランティアの思いや立ち上げ当時に絵本を受け取った親子のその後を取材しました。全国各地での活動の広がりとともに、懐かしい記憶と現在の様子をお伝えします。

※子ども読書年推進会議（子どもの読書に関わる約280の団体・企業・個人が参加）が杉並区の協力を得て実施

※この記事は『第2回ブックスタート全国大会報告書 出会う・向きあう・語りあう』（2004年／NPOブックスタート）から、一部をまとめ直して掲載したものです。

## 試験実施からの数年を振り返って

～元杉並区立図書館司書 田中共子さんのお話から～



2009 年撮影

杉並区の本格導入以降も、担当者として長くブックスタートに尽力された田中さん。残念ながら2013年に逝去されましたが、その思いは現在も杉並区の活動に生かされています。

### 立場を超えて「子育て支援」を考える

まず、ブックスタートを杉並区で取り組むにあたって、どこ部署でこの仕事をやればいいかを話し合いました。図書館員の仕事からすれば、本を差し上げるというのはありえないことでしたが、「本」だから図書館が担当だろうということになりました。ところが、この活動の趣旨とは、本を読む層を拡大するとか、絵本の良さを広めるといったものではないのです。図書館員という以前に、行政の仕事に関わる者として、部署やセクションを超えて、「子育て支援」をやる必要があるがりました。

次は実施機会と場所です。生後4か月のお子さんを対象に行う集団健診の際に、ブックスタートを行うことが決まりました。普段、図書館のカウンターにいと、たくさんの人に会います。もちろん子どもも赤ちゃんもいます。しかしブックス

タートでは、毎回2時間くらい、4か月の赤ちゃんを何人も見続けることになるのです。これまではそのような体験がなかったたので、最初はどのようなことかわかりませんでした。

### 赤ちゃんが教えてくれた

ある時、赤ちゃんに絵本をどうやって見せるのかを保護者に説明している最中に、赤ちゃんが首をギューツと曲げて絵本のほうに顔を向けたので、私はびっくりしてしまいました。「まだ早くて反応もないかもしれないけれど、そのうちに」と説明していたからです。「あらっ」と思っってよく見せてあげると、赤ちゃんも絵本を一生懸命に見ようとしています。絵本の中身がどうかというよりも、声をかけながら絵を見せてあげると、赤ちゃんからの反応があるのだ、と気づきました。

### まいた種がいつか芽吹くと信じて

今、行政で何か新しいことにチャ

フが声をかけるとパツと表情が明るくなるのです。医師や保健師に相談するほどではない、ちょっとした子育ての悩みを吐露する人もいます。そんな時は「あなた自身を大切にしてください」と伝えていきます。

会の活動は無償ですが、赤ちゃんの「笑顔」と保護者からの「ありがとう」が何よりのご褒美。幸せなボランティアだと思います。



初年度に絵本を受け取った子は20歳に。成人式にはお祝いの電報を届けようと考えています。

岡山県西栗倉村

お話をうかがった方

白旗 佳二さん(父) 2001年に絵本を受け取ったご家族  
洋子さん(母) 晃征さん(子)

### 読みきかせで感じた息子の成長

佳三さん 息子が赤ちゃんだった頃、妻の姿が見えなくなるとよく泣いていました。その度に私は、ブックスタートでもらった『おつきさまこんばんは』（林明子 作／福音館書店）を読みきかせていました。ある夜、風呂上がりに息子を抱いて、ふと外に出た時のことです。東の空にまんまるのお月様が見

レンジするのは、予算がない、人手がない、という理由でとても困難な時期にきています。でも、私たちがまいた芥子粒みたいな種が、何十年か経った時に、検証はできないけれどあれが良かったのかなということがあったら、本当にいいと思います。

杉並区でも、はじめ現場では「あらー、大変なことをやることになってしまったんだ」と感じました。上層部でゴーサインを出しても、実際にやる職員は、日常業務をやりつつ新しいことにも取り組まなくてはなりません。けれど、どんな困難な中でも、住民サービスとして始めたことについては、ずっとやり続けたい。ですから、どういうやり方であるのか、悩みに悩んで、杉並区なりの方法を模索してきました。

やはり立ち上げの時はある程度勢いがありますからね。最初はできたことが、これから代が変わっていつて何年も経った時に、この最初の気運とか志が途絶えていかないようにしたいです。大切なのはコミュニケーションだと思っています。

マニュアルを引き継いでいくのではなくて、私たちのやってきた仕事引き継がれていくよう、できることはやっていきたいですね。そして、種からいつか芽が出ることをロマン

らった記憶があります。そういえば、ラッコのバッグを持って図書館に通っていました。外遊びが多かったけれど、室内で過ごす時に絵本はとても役に立ちました。今、本を読む習慣があるのも、幼い頃に絵本に親しんでいたからかもしれません。



ブックスタートでもらった絵本を手にする洋子さんと晃征さん。

## 数字で見るブックスタートの広がり

2001年から自治体の事業として開始した日本のブックスタートは、現在全国の1058自治体（普及率60・8％）が実施するまでになりました。2019年度に対象となった赤ちゃんの人数はおよそ45万人、2001年からの累計では730万人を超えています※。

この20年間、少子化や核家族化が進み児童虐待などの問題が深刻化する中、ブックスタートは、保護者の育児を地域全体で支える事業として注目されてきました。一方、財政難

チックに考えて、みんなで見守っていききたいなと思っています。

\* \* \*

田中さんの言葉には、立ち上げ当時の熱気や、未来への期待感が伝わってきます。20年前に日本にまかれた小さな種は、その後どのように成長してきたのでしょうか。2001年に取り組みを始めた2つの自治体の「今」を取材しました。

富山県高岡市 お話をうかがった方

立ち上げ当初から活動続けるボランティア  
高岡市つこの会 竹内ときえさん

### 笑顔とありがとうが何よりのご褒美

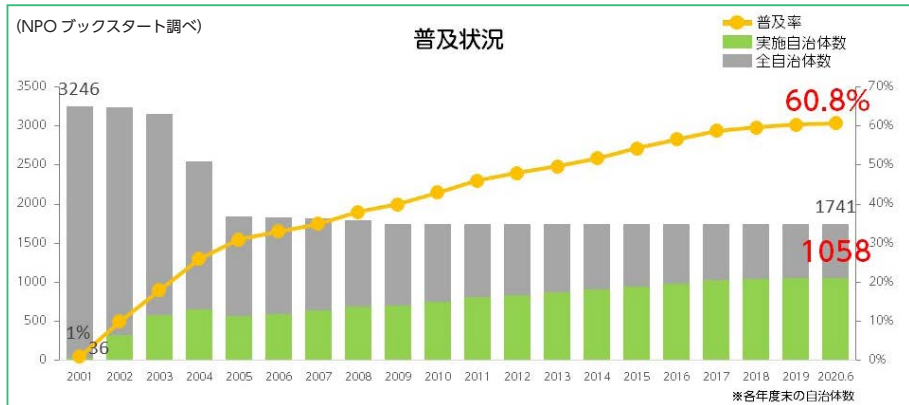
初めてブックスタートを実施した日、3か月の赤ちゃんが絵本を見て笑顔になる姿に、みんなで「すごいねー」と喜びました。そして、そんな赤ちゃんの様子を一生懸命に見ている保護者の姿に、我が子を大切に思う気持ちを、ひしひしと感じたことを覚えていきます。

近頃では、赤ちゃんに絵本を読むことが保護者になりに浸透しており、事業の説明もスムーズに受け入れてもらえます。一方、会場に知り合いがいなくてポツンとしている保護者の姿が気になってきます。自分から他の人に話しかけにくいのか、スタッ

などで、事業を中止せざるを得ないケースや、自然災害により大きな影響を受けた自治体もあります。

そうした中でも、この事業は少しずつ、確実に、全国へと広がりました。次のページからは、各地の取り組みの様子を写真とともにお伝えします。

※厚生労働省人口動態及びブックスタート実施状況（NPOブックスタート調べ）をもとに算出





わらべうたを紹介する絵本に目を通す保護者（2016年）



Tatsuno

### ⑦ 長野県辰野町 事業を検証し予算増額に成功

辰野町の実施 10 周年を機に、保護者やボランティアへのアンケートを実施。回答者全員が事業の継続を支持したことなどから、予算の増額を訴えた結果、育児に役立つ保護者向けの書籍を絵本とともにプレゼントしたり、布製バッグを厚手のものに変更したり、事業をさらに充実させることができました。

子育て支援センターには図書室も設置（2012年）



Numazu

### ⑧ 静岡県沼津市 継続的なフォローアップ活動

ブックスタートのフォローアップ活動として、「ブックステップ」（2歳児歯科健診の際に、読みきかせをして絵本を1冊手渡し）と「ブックフォロー」（移動型親子サロンの場で、読みきかせや貸し出しを行う）を実施しています。継続的な取り組みで、絵本を通じた親子の絆づくりをサポートします。

1歳6か月児健診での受付の様子（2017年）



Fukui

### ⑨ 福井県福井市 実施機会を複数設ける

0歳児の集団健診がないため、図書館で実施しています。一方、そこに参加しない方の中こそ、支援を必要とする人がいるかもしれない。行政サービスの公平性を考えても十分ではない。そんな思いから、手間をかけてでもすべての親子にアプローチできるよう、1歳6か月児健診でも実施しています。

外国人親子とも絵本のひとときを楽しむ（2017年）



Oizumi

### ④ 群馬県大泉町 外国語を母語とする親子に向き合って

対象者の約半数が外国人親子だったという日があるほど、外国人住民が多く暮らす大泉町。対象者が不快な思いをしないよう、文化の違いの認識を関係者どうしで共有しています。一方で、「特別な」配慮ではなく、「あなたに伝えたい」という気持ちを大切に、外国人を含めたすべての親子に向き合っています。

絵本の楽しいひとときに保護者も笑顔（2013年）



Kamagaya

### ⑤ 千葉県鎌ヶ谷市 親子がほっとできる空間づくりを

保健師とボランティアが協働で事業に取り組んでいます。絵本を通じた親子のふれあいの楽しさを伝えるとともに、「ひとりで頑張りすぎないで」というメッセージを保護者一人ひとりに伝えています。健康相談に來所した親子があたたかな雰囲気の中、ほっと安心できる空間づくりを大切にしています。

協力して親子を迎える準備（2012年）

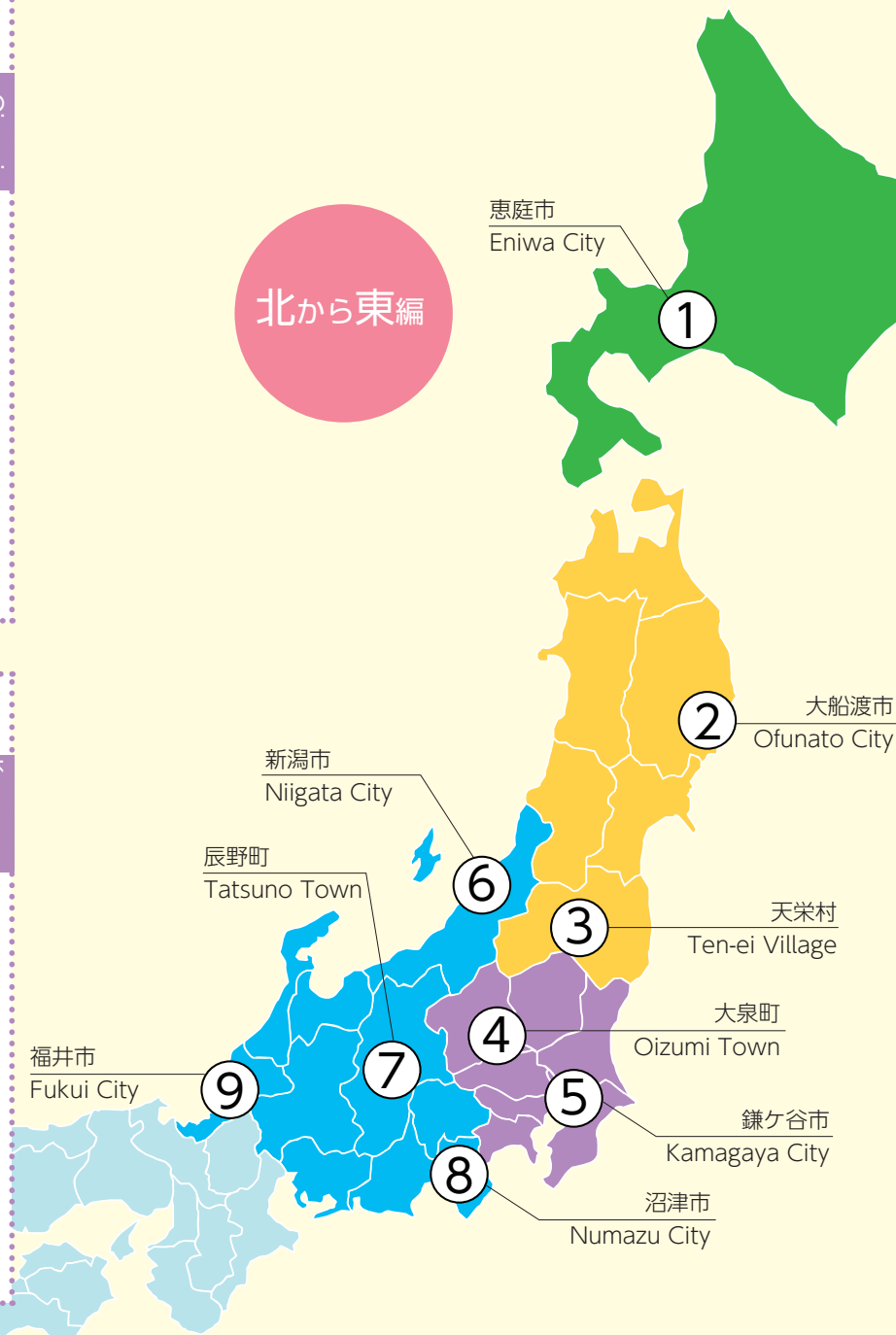


Niigata

### ⑥ 新潟県新潟市 年間200回、17会場で実施するための工夫

政令指定都市であり、人口、面積ともに大きい新潟市では、関係機関や市民委員などによる「新潟市ブックスタート推進委員会」で1年間協議を重ね、事業を立ち上げました。終了後のミーティングやステップアップ講座の開催により、各地で活動するボランティアとの情報共有に力を入れています。

北から東編



地域のあたたかさを感じながら絵本を楽しむ親子（2009年）



Ten-ei

### ③ 福島県天栄村 財源は地域の共同募金

社会福祉協議会が事務局を担っています。事業の財源は、赤い羽根共同募金です。自分の募金が身近なところで活かされていることが理解され、「うちの孫が世話になったから」など、募金を通して地域の子育てを応援してくれる住民が増えました。親子にも村の人たちの思いを伝えています。

## 全国各地の取り組みに／ クローズアップ！

絵本を開く「体験」と「絵本」をセットでプレゼントするブックスタート。事業が継続される中で、地域の人たちの思いが、活動に深みとあたたかみをもたらしています。20年間に集まった全国各地の様々な工夫や取り組みをご紹介します。

※事例および写真は取材当時。  
現在の状況とは異なる場合があります。



Bookstart

事業立ち上げの頃の様子（2001年）



Eniwa

### ① 北海道恵庭市 図書館が子育て支援の役割を担う

2001年4月から事業を開始。当初から着目していたのは、図書館が子育て支援の役割も担えるという、読書推進以外の意義でした。赤ちゃんが絵本と出会うきっかけづくりは、親子の絆を深めることにつながります。この思いは、本を通じたまちづくりを進める市の施策にも活かされています。

震災後も活動を継続（2011年）



Ofunato

### ② 岩手県大船渡市 震災で改めて感じた「絵本の力」

東日本大震災で大きな被害を受けましたが、震災から4か月後にブックスタートを再開しました。手渡した絵本で笑顔になる親子や、同じ災害を経験した者どうしが子育ての話を通して打ち解け合っていく姿を見て、関係者の皆さんは「絵本の力」を改めて感じたといひます。



候補の絵本を手に取りながら選考（2018年）



Kobayashi

### 17 宮崎県小林市

保育士、幼稚園教諭、保護者が選書に参加

保育士や幼稚園教諭、ブックスタートを受けたことのある保護者などが参加する「選書委員会」を組織し、異なる視点から親子に手渡す絵本を選びます。選考にあたり、普段は活動に関わらない委員も事前にブックスタート会場を見学。事業を客観的に見て、アイデアを提案してくれることもあります。

赤ちゃんを大事そうに抱っこする学生（2014年）



Chikugo

### 16 福岡県筑後市

中高生がブックスタートに参加

図書館では中学・高校生を対象に、様々な職業の人が講師を務める「YA なるには講座」を開催。その一環として、保育士や保健師、司書を目指す中高生がブックスタートに参加し、親子と交流する機会を設けています。赤ちゃんとの出会いを通して、夢に向かう子どもたちを応援します。

ブックスタートで親子に行う手遊びを実演（2018年）



Tottori

### 13 鳥取県鳥取市

15周年記念イベントを開催

鳥取市の事業開始 15 周年を記念したイベントでは、事業関係者や子育て支援者が多数集まりました。活動報告に加え、読みきかせや手遊びの実演で会場全体が笑顔に。これまでの歩みを振り返り、何を大切に活動してきたのかを再確認することで、関係者が気持ちを新たに、元気づけられる機会となりました。

親子と子育て応援団が交流しながらゆったりと過ごす（2008年）



Inabe

### 10 三重県いなべ市

継続的な子育て支援で親子をサポート

ボランティア、民生委員、母子保健推進員からなる「子育て応援団」がブックスタートに参加し、親子が地域とつながる場を作ります。さらに家庭訪問など、すべての親子と関わる子育て支援事業を 1 歳 6 か月までに 4 回行い、未就園児とその保護者を継続的にサポートします。

関係者どうしのこまめな情報共有を意識（2009年）



Naha

### 18 沖縄県那覇市

行政 4 課とボランティア 3 団体が連携

事業を運営するのは、民間団体の「沖縄県子どもの本研究会」です。主管課である生涯学習課をはじめとする行政 4 課と、文庫や母子保健推進員、保育士などが所属するボランティアの 3 団体が運営をサポートします。各自の専門性を活かしながら連携して事業を行っています。

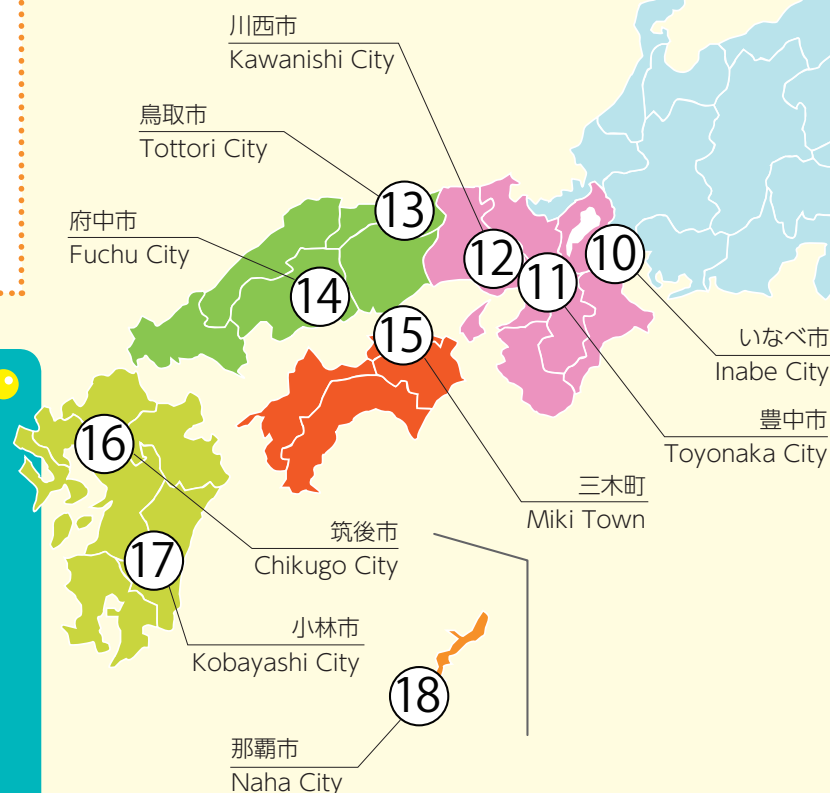
## おわりに

地域の状況に合わせ、工夫を加えながら各自治体で続いているブックスタート。

20 年でこのように活動が広がった原動力は、地域の未来であり、宝である赤ちゃんの育ちを、多くの大人たちが真剣に、大切に、考え続けてきたことだと思います。

そしてこれからも、行政の各部署が連携し、市民ボランティアと協働して行われるこの活動が、赤ちゃんと保護者の幸せを応援する事業としてさらに深まり、広がっていくことを願っています。

## 南から西編



親子に絵本を読む主任児童委員（2019年）



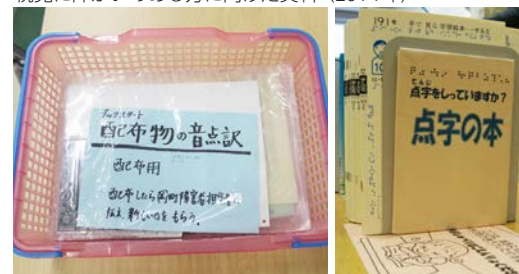
Fuchu

### 14 広島県府中市

主任児童委員（民生委員）と連携

読みきかせと説明をするのは地域住民でもある主任児童委員です。自分の連絡先が書かれた資料を保護者に手渡し、身近なところに相談相手がいることを伝えます。保護者との会話の中で、経済的な厳しさや、家族の病気に関する相談を受け、関係機関につなぐこともあります。

視覚に障がいのある方に向けた資料（2014年）



Toyonaka

### 11 大阪府豊中市

障がいのある方のニーズに合わせたサービス

点訳・音訳した事業の説明資料や図書館利用案内、点字をつけた絵本や布絵本を会場に用意し、必要に応じて保護者に案内します。大切なのは、すべての市民へサービスを提供すること。図書館では、障がいのある方や外国人居住者など、少数のニーズにも対応できる体制を整えています。

かわいらしい名札は親子からも好評（2018年）



Miki

### 15 香川県三木町

手作り名札をプレゼント

牛乳パックをウサギなどの形に切り取り、布を貼って紐をつけた手作り名札を親子にプレゼントします。みんなが同じパックを受け取るため、名札をつければ間違える心配もありません。これはボランティアのアイデアです。行政の事業に市民が関わり、ともに活動を充実させています。

親子に出会えるまで何度でも出向く（2018年）



Kawanishi

### 12 兵庫県川西市

家庭訪問で実施 虐待予防に絵本を活用

虐待予防や子育て不安の解消を目的とした訪問事業にブックスタートを導入しました。一組一組の親子に寄り添った声掛けをしながら、赤ちゃんとも穏やかに過ごす方法の一つとして絵本を紹介します。保護者に安心感と勇気を与える支援を目指しています。





## 人類の育児スタイルは共同養育

明和政子 (比較認知発達科学者)

止まらない少子化、ひとりで担う育児、児童虐待など、子育てにまつわる問題は深刻さを増しています。また、AI (人工知能) が子育ての分野でも活用されはじめる、「ヒト」はこれまでに経験したことのない子育て環境におかれています。現代の親たちが、子育てが難しい、つらいと感じるのはなぜか。ヒトにはなぜ「共同養育」が必要なのか。その理由を、ヒトとチンパンジーの心と行動の比較や、ヒトの脳の発達など、科学の視点からひも解いた講演の記録。

● 本体 600 円 + 税 ● 54 ページ  
● 2020 年 2 月発行

## 父の話をしましょうか〜加古さんと松居さん〜

鈴木万里 (加古里子長女) 小風さち (松居直長女)

「時代に合った絵本を作りませんか」敗戦からまだ 10 年も経たない混乱期。日々の生活を成り立たせるのに精一杯の日本で、だからこそ、子どもたちに明るい未来を約束しようと、新しい絵本作りに挑戦した作家の卵と若き編集者がいました。加古里子と松居直。ふたりはどのように「時代にあった」かつ「子どもが繰り返し楽しむ」絵本を生み出し、日本のみならず世界にも絵本の種をまき、育ててきたのでしょうか。その出会いと仕事の一端を、娘たちが貴重な資料をまじえて語り合います。

● 本体 600 円 + 税 ● 54 ページ  
● 2020 年 3 月発行

## 絵本はコミュニケーションツール

スギヤマカナヨ (絵本作家)

赤ちゃんとふれあい、気持ちを通い合わせた自らの幸せな体験から「赤ちゃん絵本の作り方は、赤ちゃんから学んだ」という著者。絵本をひらいて親子で共に過ごすあたたかいひとときは、幼い記憶の底に残るはず。この「いつかの懐かしい」記憶が、子どもの生きる力を支える土台になるのではない。絵本を通して生まれるものの豊かさについて、子どもたちとの具体的なやり取りをまじえて語ります。

● 本体 600 円 + 税 ● 38 ページ  
● 2020 年 2 月発行

既刊

◆ 赤ちゃん・絵本・ことば 谷川俊太郎 (詩人) ● 本体 500 円 + 税 ● 56 ページ ● 2015 年 1 月発行

◆ 赤ちゃん〜ゆりかごの中の科学者〜 榎原洋一 (小児科医) ● 本体 500 円 + 税 ● 52 ページ ● 2016 年 3 月発行

◆ 社会で子どもをはぐくむ 武田信子 (臨床心理士) ● 本体 500 円 + 税 ● 44 ページ ● 2017 年 3 月発行

◆ すべての赤ちゃんに絵本を ウェンディ・クーリング (ブックスタート発案者) ● 本体 600 円 + 税 ● 96 ページ ● 2019 年 1 月発行

ご注文フォーム



## こトコト ことのは

スタッフが出合った言葉

人間の子どもの中でも、それだけで完結する実りというものがあるはず。

ひまわりの種はあの小さなひと粒の中に、芽生えから大輪の花が開くまでのすべてが備わっています。人間の子どもの亦然り。なのに、大人は何かを足そうと夢中になっていないのでしょうか。と問うひぐちさん。ご自身の経験も省みながら、その子らしさをどうしたら損なわずに生きていけるかに大人は心を砕いてほしいといひます。その成長を喜んで見守ることが、植物にとっての“肥料”のようなものだと。

\*『子どもからの贈り物“お母さん”であることを楽しむために』(ひぐちみちこ著・こぐま社) より

## お知らせ

「ブックスタート」の発案者 ウェンディ・クーリングさんが、昨年からの病氣療養中のところ、6 月 21 日ロンドンにて永眠されました。子どもの本に関して幅広く活躍し、多くの功績を遺したウェンディさんに敬意を表すると共に、出会いに感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。